

2024年1月30日  
九州電力株式会社

## 「令和6年能登半島地震」における北陸電力志賀原子力発電所の状況

### 1. はじめに

「令和6年能登半島地震」では、2024年1月1日（月）及び6日（土）に北陸電力志賀原子力発電所が設置されている石川県志賀町において震度6弱以上が観測されました。

公表されている資料をもとに、「令和6年能登半島地震」における志賀原子力発電所の状況について、ご紹介させていただきます。

### 2. 地震による志賀原子力発電所の主な影響

#### 【止める・冷やす・閉じ込める機能】

##### ①止める

（1号機）定期検査により停止中

（2号機）定期検査により停止中

##### ②冷やす

（1号機）

○使用済燃料プール冷却浄化系ポンプが地震直後にトリップしたが、その後、再起動し使用済燃料プールの冷却を維持。

○使用済燃料プールのスロッシングにより溢水が発生したが、管理区域外への漏えいはなく、プールの水位及び冷却機能に異常なし。

（2号機）

○使用済燃料プールのスロッシングにより溢水が発生したが、管理区域外への漏えいはなく、プールの水位及び冷却機能に異常なし。

##### ③閉じ込める

○排気筒モニタ及びモニタリングポストの値に異常なし。

#### 【電源】（志賀原子力発電所の外部電源 500kV 2回線、275kV 2回線、66kV 1回線）

（1号機）

○外部電源を 275kV から受電していたところ、起動用変圧器からの油漏えいにより 66kV に手動で切り替え、受電を維持。

○その後、2号機からの所内電源融通により、275kV からの受電に切り替え。

○非常用ディーゼル発電機2台が待機中。（1台は点検中）

(2号機)

- 外部電源を 500kV から受電していたところ、主変圧器の油漏えいにより **275kV に自動切り替え、受電を維持。**
- 非常用ディーゼル発電機 2 台が待機中（1 台は点検中）。
- 大容量電源車 1 台が待機中（1 台は点検中）。

## 【変圧器】

(1号機)

- 起動変圧器からの油漏れが確認されたが、漏れた絶縁油は堰内に収まっており、1月2日に回収済み。

(2号機)

- 主変圧器からの油漏れが確認されたが、漏れた絶縁油は堰内に収まっており、1月5日に回収済み。
- 1月7日の詳細点検において、主変圧器周辺の側溝及び道路並びに発電所敷地前面の海面上に油膜が浮いていることが確認され、中和剤による油膜の処理を実施済み。
- 主変圧器については、当初、火災と報告されたが、その後の現場調査で**火災ではなかったことを確認。**

## 3. その他

(1) モニタリングポストの状況

志賀原子力発電所周辺のモニタリングポスト 116 局(自治体及び国設置)のうち、一時期、主に発電所北側 15 km 以遠の 18 局が欠測した。その後、徐々に欠測箇所は減少し、現時点で欠測しているポストは 1 局である。現場確認の結果や通信の回復状況から、主に通信による不具合が欠測の原因と推測している。現在、石川県において、測定できているモニタリングポストも含めて、順次、現地確認、燃料補給等を継続しているところ。

北陸電力が発電所敷地内に設置しているモニタリングポストに異常はない。

(2) 原子力防災（屋内退避のタイミング、期間）

原子力災害と自然災害の複合災害があった場合の屋内退避のタイミングや期間について、今後の原子力規制委員会で検討することとなった。(2024年1月17日原子力規制委員会)

以上

(注)「令和6年能登半島地震における原子力施設等への影響及び対応」(原子力規制委員会)等をもとに編集